

【小学生の部：会長賞②】

「障がいのある人と接して」

茨城県・筑西市立五所小学校

6年 渡辺 美南 さん

私は障がいのある人と毎日のように接しています。それは私の両親が、障害者支援施設で働いているからです。私の家は施設のとなりにあるので、幼い時から私にとって知的に障がいのある人はとても身近な存在でした。

私が今まで障がいのある人と接してきて感じることは、優しさです。私は、毎日学校から家に帰る途中で施設に寄り、お母さんから家のカギを受け取って、家に帰っています。その際にいつもみんなが声をかけてくれます。「こんにちは」と大きなあいさつをしてくれる人や「今日は学校どうだった？」と優しく声をかけてくれる人もいます。はずかしくて自分からなかなかあいさつができない私よりも、毎日先にあいさつをしてくれるのでとてもうれしく思い、私も積極的にあいさつをしようと心がけるようになりました。

また、障がいのある人は一生けんめいな人が多いです。私は小さいころから障がいのある人と一緒に、和太こを習っています。私がすぐに覚えることのできる曲も、障がいのある人達は、なかなか覚えることができません。けどコツコツと長い時間をかけて、手にまめができるほど練習して覚えています。こんなに一つのことに集中してがんばることができる姿を、いつもすごいなあと思っています。今では地いきのお祭りやイベントによばれ、一緒に和太こをひろうしています。一番印象に残っているのは、二年前にハワイで演そうしたことです。みんないつも以上に練習をして本番にのぞみました。外国の人達はとってもノリが良くて、私達が演そうした後で、大きな拍手や声えんをおくってくれる人や、「ヒューヒュー」と指笛をふいてくれる人もいて、とってもうれしい気持ちになりました。みんなとずっと一緒にがんばって続けてきて、本当によかったと心の底から思いました。私が今まで生きてきた中で、一番の大切な思い出です。

障がいのある人の生活は、障がいのない私達の生活より何倍も大変だと思います。でも私は、障がいのある人は、周りが少しサポートしてあげれば何でもできると思います。だから障がいがあっても、色々なことにチャレンジしてもらいたいです。そのことを友達やみんなが分かってくれたらいいなと思います。